

正会員 各位

(一社) 全国LPガス協会

国の審議会における資料等について（お知らせ）

標記審議会が下記のとおり開催され、同省のホームページにその資料が掲載されましたので、お知らせいたします。

なお、誠に恐縮ではございますが、本資料につきましては容量が大きいことから添付しておりませんので、下記ホームページよりご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

記

○総合資源エネルギー調査会 資源・燃料分科会(第46回)

: 令和8年5月15日(金)開催

[https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen\\_nenryo/046.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shigen_nenryo/046.html)

〔主な概要等〕

資源エネルギー庁において、中東情勢における日本の資源・燃料政策の方向性について議論が行われました。

当協会より、オブザーバーとして村田専務理事が出席し、以下の発言を行いました。

【村田オブザーバー主な発言】

・ 中東情勢とエネルギー供給リスクについて

今回の事案は「ホルムズ海峡封鎖」を契機としたものであり、従来の“テールリスク”とは異なる性質を持つ。

今後は、従来の想定を超える“異次元の供給リスク”が起こり得ることを前提に備える必要がある。

・ LPガスの供給安定性について

日本のLPガスは中東依存度が極めて低く、米国・オーストラリア・カナダからの輸入が90%以上。今回の中東危機でも、量的な供給不安は発生していない。国家備蓄・民間備蓄もあり、供給面では安定している。LPガスは災害に強い分散型エネルギーであり、昨今の地震多発状況を踏まえると重要性が増している。

・ 複合災害への備えの必要性について

中東危機と国内大災害が同時発生する可能性も想定すべきである。その

ため、複数の有事対応策を検討する段階に来ている。

・ **LPガスの政策的評価と今後の推進について**

LPガスは低炭素・災害に強い“最後の砦”となるエネルギーとして、第7次エネルギー基本計画での位置づけ以上に、LPガスの最大限活用に向けて政策的に評価・推進してほしい。

・ **石油製品からLPガスへの燃料転換の推進について**

中東依存度の高い重油・灯油からLPガスへの燃料転換は有効な選択肢となる。現在、園芸分野などを念頭に進めているが、今後は対象を広く業務用分野にまで拡大し、燃料転換の推進を検討すべき。

今回の危機でも、公衆浴場などで重油調達に苦労している事例があるため、LPガス転換の後押しをお願いしたい。

・ **容器・配送面での潜在的リスクについて**

LPガスそのものの供給量は問題ないが、LPガス容器の塗装に必要な溶剤の供給など、周辺資材の供給がボトルネックとなる可能性がある。現時点では対応できているが、今後の供給不安を懸念する声が現場から上がっている。

・ **経済産業省への要望**

サプライチェーン全体（上流～末端）を通じて、問題があれば迅速に対応いただきたい。

以 上

発信手段：Eメール

担当：保安・業務グループ 瀬谷、岩田